



## JCNA通信 第32号

発行日 2022.7.20  
発行人 山口 郁乃  
編集人 藤井 智恵美  
創立 1957 (S32) 年

### JCNA 通信 32 号発行にあたりひとこと

第7代会長山口郁乃

JCNA 会員のみなさま、ご支援くださるみなさま、暑中お見舞い申し上げます。

主イエスと聖母マリアに倣い病む人苦しむ人に奉仕しようとするこの団体にとって新型コロナウイルス感染症に支配された日々は厳しいものでした。みなさまの実感はいかがでしたか？

今回の通信 32 号は、新年度制で始まったこの 1 年を、その影響を受け止め、次に踏み出そうとする第一歩とします。

まず、5 月 21 日にオンラインで行われた第 67 回全国総会を報告します。オンライン会議は、使いこなせる者にとっては「移動費も要さず自分の場で話せる」「オンラインだからこそ参加できる」メリットもありながら、つながる機器のない者にとっては「参加そのものが困難」というデメリットもあります。時代の変化、今がその境界の時で、私たちはたくさん話したけれどすべての声を聴いたわけではないという辛さを抱えたご報告です。対面の総会が待たれます。

いくつかの支部からのお声が届いています。うれしい便りです。

暮林神父様のお話は、総会誌だけではもったいないので、入れました。

#### ◆JCNA 第 67 回全国総会報告 オンライン会議（議案書に従って報告します）

○2022 年 5 月 21 日（土）10:00 開会（進行は長谷川綾子副会長）閉会 5 月 21 日（土）16 時

1. 初めの祈り：ナースの祈りを唱え、会歌斉唱
2. 会長挨拶：

前略 今時代は重大な局面にあります。平和のうちに経済の発展を求める生き方が当然のように社会にあふれていましたが、今、平和がとんでもなく遠いものとなっていることを思い知らされる状況です。医療も、人の命を救う方へ進むと思っていましたが、必ずしもそうではなく、公平でもありません。地球上にたくさんの苦しみがあり、問題によっては私たち自身の生き方が原因のものもあるでしょう。こういう時代に JCNA がどのように働けば主のみ心に沿うことになるのか。「力は小さく弱くとも希望の光かかげもち・・・」という井深八重初代会長のお心が支えです。

3. 本部顧問司祭暮林響神父様のお話（声掛けとして）：

「イエス様の呼びかけに愛に満ちた繋がり支え合いを待つという思いが深められる総会、血の通ったカトリック看護協会がイエス様の体として心を砕いて考えていけたら」

4. 黙祷：

今回は会関係者の帰天の報告はなく、ウクライナ、ミャンマー、アフガニスタンなど紛争地の犠牲者のため、そして私たちが知る限りの死者のために祈りました。

5. 参加者自己紹介：年 1 回の全国総会では心を通わせあうための大切な時間です。

支部顧問の神父様の参加は、札幌・長崎・名古屋・広島、計 4 名でした。

6. 議長選出： 牧山幸二福岡支部長が受けてくださいました。

## 7. 総会成立宣言： 本部会計石原さんより。

14支部のうち3支部は委任状、1支部は欠席、規約を満たしていたので成立する。

## 8. 議事

### 報告事項

#### (1)本部活動報告（2021年9月1日～2022年3月31日までの報告）

全国総会1回、本部役員会4回、JCNA通信発行2回、

オンライン研修「今歴史をつなぐ」およびオンライン早春黙想会の実施。

若い会員募集に力を入れるためJCNA紹介リーフレットを新しく作成、看護科卒業式にお祝いのお花と共に贈る企画（実施は各支部による）

新年と世界病者の日のカトリック新聞に広告、新司教着座お祝い状、関係団体との挨拶状交換。

また、「カリタス南相馬」や、「こうのとりのゆりかご in 関西」を支援、

生命尊重センター活動の経口妊娠中絶薬認可反対署名に協力、など

**本部会計後任者、および国際渉外担当者、探し続けている**が決まらないこと。

#### (2)支部活動報告：参加の各支部長から報告

看護学生に卒業祝い（実際には入学祝いも）としてお花と紹介リーフレットを届けた体験、

コロナのクラスター発生時の体験のこと、ウクライナのための祈りをしたこと、

コロナによる行動制限下で活動が困難であったなかでの努力のことなど報告があった。

#### (3)本部会計決算報告： 本部会計石原貴子より

<ここまでで12:12となり昼休憩に入りました。>

### 13:30 討議再開

### 討議事項

#### (4)2022年度JCNA活動テーマ

「あなた方の父が憐れみ深いようにあなた方も憐れみ深い者になりなさい」ルカ6:36に基づき

2022年度本部事業計画について会長より説明

①今年度初めて試みるのは、「支部研修をハイブリッドで実施する場合、本部が経済支援しよう」という事業です。コロナ禍のため、全国大会の開催が2年連続で実施出来ず、来年も準備できそうにない、という状況を打開する企画としました。研修の内容や配信の準備は支部が行う、交流会や宿泊のお世話はしない、これなら今からでもできる支部があるでしょう。

現在これを計画中の広島支部は、昨年WHOから世界の100人のナースの一人に認定された新福洋子広島大学大学院教授の講演会を、会場と全国の会員を結んで実施するとして進めています。他支部からも、支部研修会を全国の会員と分かち合う企画が出てくることを期待しています。

講師謝礼、カメラマン雇用、会場確保などのため、本部予算措置で支援とします。

②新しい命が祝福の中に生まれることを支援する「こうのとりのゆりかご in 関西」の支援。

また大震災の被災者を支援し原発のない日本を希望する意味の「カリタス南相馬」支援。

これらに加え今年は、方法があれば、ウクライナのためにもできることをしたい。

③会員拡大を目指し、看護科卒業生（入学生）にお花とリーフレットを贈る事業を続ける。

④その他本部としての役割を果たす。

#### (5)2022年度本部予算案について

会長より「本部会費納入が困難なので減額を希望するとの声もありますが、年来赤字予算で貯金を取り崩している現状なので、会費の減額はしません。今回も赤字予算です。」

予算案について会計石原より説明をし、金額等について討議しました。

結果は別紙のとおりです。

討議の結果、変更されたのは、

①管理費項目の一部変更⇒添付の予算書と照合してください。

\*国際渉外費 ⇒ CICIAMS 年会費（2年に1度、会員数に応じて納入）とする。

\*国内渉外費 ⇒ 渉外費と寄付金にわけるとする。

\*研修会費 ⇒黙想会謝礼などに充当する。

②事業費項目の金額について

\*渉外費 学校関係のお祝いの花代として10万円（未処理の既寄贈分を含む）

\*寄付金 「カリタス南相馬」「こうのとりのゆりかご in 関西」に各2万円の寄付支援を続ける。

今年度はウクライナの人々を支援するためカリタスジャパンを通じて2万円寄付する。

\*全国大会費 開催できないので減額し、ハイブリッドの支部研修会数件支援として用意する。

\*全国総会費 オンラインで開催するので、資料作成（手作り）費用のみとする。

\*CICIAMS 関連費 今大会に代表を派遣しないので0とする。

\*医療団体協議会関連費 今、会議はオンラインなので派遣費用を要せず、0とする。

【予算について（私たちが少ない会費をいかに活用するか）十分話し合い、意見をまとめるのに

時間を多く費やした。例えば、ウクライナ支援するかしないか、金額、送るルートについて等】

(6)札幌支部提案の話し合い（JCNA は出生前診断、経口妊娠中絶薬認可などについてどう考えるか、基本姿勢とこれからの行動）は、CICIAMS 倫理ガイドラインを遵守することの確認をしました。

（各支部に資料配布）。現在、国会で経口妊娠中絶薬認可に向けての動きに対して、すでに反対署名活動に参加しています。用紙をお配りしているので考える手立てとしてください。

9. 議長降壇：拍手で謝意

10. その他連絡事項

11. 閉会：終わりの祈り（アベマリアの祈り、会員の祈り）

札幌支部顧問司祭のケン・スレイマン神父様の祝福を受けました。

別れを惜しみながら16:00過ぎ、ミーティングルームを退出しました。

以上、全国総会の概略です。次には全支部揃って話し合えますように。

**総会当日 本部顧問の暮林響神父様から 会員一人ひとりへのメッセージです。**

**「居ても立っても居られない心」 JCNA 本部顧問司祭 パウロ暮林 響 SVD**

大学で「キリスト教概論」という講義を教え始めて3年目。

キリスト教の神髄に触れてもらうようなお話をするときには、イエスがどのような心の使い方をしてきたかを伝えるために、しばしば引き合いに出される「深く憐れみ」という動詞についての説明をすることにしています。

この講義においても、必ずその説明を取り入れることにしているのですが、すると、「憐れんで」というのは、上から視線のような響きがある、との反応をもらいました。それで、いわゆる語源に立ち上ってそれが内蔵と関係している言葉であり、相手の痛みを見て、胃が苦しくなるような、もしくは日本語の自然な表現であれば、胸が苦しくなるような、そういう共感の姿勢だと伝えましたら、学生さんたちの数人が、「イエス様は、居ても立っても居られなかったのですね」というコメントをくださいました。

なるほど、本当に、「居ても立っても居られなくなり」、という言葉に「深く憐れみ」というところに入れ替えると、見事にイエス様のお姿にピッタリだと感じました。

ファウスティナ・シスターがご覧になられたと言われるイエス様のお姿の御絵は有名ですが、その絵のイエスさまも、片足が前に出ている、いつくしみ深い心から血を流しつつ、苦しむ人のそばに足を踏み出そうとしておられるご様子が見受けられます。

今の世界を見ながら、きっとイエス様がその居ても立っても居られないお姿で私たちの内側から働きかけられることが多いと思います。同じ心で愛を豊かにイエス様の働きのお手伝いができますように。

### 2022年度 日本カトリック看護協会予算書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

#### 収入の部 (単位：円)

項目	予算額	決算額	前年増減	摘要
前年度繰越金		7,643,382	519,682増	
協会費	2022年度	738,000		会員184名738,000円準会員1名 (2022/3/31現在)
前受金				
寄付金				
バザー収益				
貯金利息		50	50減	
雑費				
収入合計				
総合計		<b>8,381,432</b>		

#### 支出の部 (単位：円)

管理費項目	予算額	決算額	前年増減	摘要
渉外費	100,000			学校関係(祝い花 既贈分含む)など
寄付金	60,000		20,000増	カリタス南相馬 こうのとりのウクライナ支援
本部役員会会場費	10,000			zoom以外での会議を見込んで
通信運搬費	55,000		10,000増	送料、手数料 zoom料
旅費交通費	200,000			本部役員会(対面の場合)
印刷費	40,000			通信作成費
消耗品費	20,000			事務用品
CICIAMS年会費	120,000			2年分('22年'23年分)
日本カトリック医師会	10,000			1年分
中央協議会公認団体更新料	10,000			1年分
日本カトリック医療団体	20,000			拠出金1年分
雑費	1,000			
小計	<b>646,000</b>			
事業費項目				
全国大会費	180,000		120,000減	支部研修支援充当
全国総会費	10,000		90,000減	総会誌作成費他
研修会費	30,000		30,000新設	黙想会等
J C N A 広告関係費	100,000		175,000減	HP関連費、新聞広告費(3回分)
CICIAMS関連費	0		100,000減	大会参加なしのため
医療団体協議会関連費	0		50,000減	対面なし
保存資料作成費	30,000			JCNA資料電子データ化手数料
小計	<b>350,000</b>			
予備費	100,000			
当年度合計	<b>1,096,000</b>			
次年度繰越金				

科目の流用を認める

今年度より支出項目(渉外費・寄付金)見直し変更とする。

ゆうちょ銀行通常貯金	3,638,541
ゆうちょ銀行定期貯金	4,000,000
現金残高	4,841
合計	<b>7,643,382</b>

## 「すべてのいのちを守るために」 会長からみなさまへ

JCNA 第7代会長 山口郁乃

フランシスコ教皇は、信徒が政治に関わるように望まれます。社会にある反福音的な動きを見極める、実際に、社会が主のみ心と違う方に行きそうなとき、まずいなと思うだけでなく、ストップをかけて修正するには、自分の意見を言わなくてはなりません。

経口妊娠中絶薬の認可問題がその例です。受胎の初めから人間であるのに、妊娠した女性が胎内の子を殺す薬を服用して、妊娠がなかったことにする。赤ちゃんの命が失われるのは無論のこと、服用した本人の心身も深く傷つきます。決して「使ってよい薬ではない」と考えるから、厚生労働大臣や他の議員さんにお手紙を書きました。「たとえ WHO が認可していても、日本では認可しないでください」もちろん署名もしました。何もしなかったら、神のみ前で、消された命について申し開きができません。

また、内密出産一例目の方がマスコミに取り上げられ、母親を追及する動きがあった時、読売新聞に投稿しました。「母親探しをしないでください、この女性は厳しい状況下にあっておなかの赤ちゃんを殺さず、自分も子も生きられることを選んだのです」言わずにおられませんでした。

これらの行動のきっかけは、「優生保護法」の制定と関連します。第二次世界大戦後、疲れ切った日本に、続々と赤ちゃんが生まれることになった時、人口の急激な増加と食料不足を危惧した政府が「優生保護法」を作り、医師一人の判断で人工妊娠中絶をできるよう認可して、多数の赤ちゃんが合法的に殺される社会ができたという経過を聞きました。私は、その多く生まれすぎた赤ちゃんの一人として殺された何百万の赤ちゃんを思い、もう誰も殺されないで！そんな切羽詰まる状況を作らないで！と切に願っています。妊娠は母なる女性にとっていろいろな意味で人生がかかっています。「産まない自由」と言うのではなく、望まない妊娠をしなくて済むように、性の欲動のコントロールを願います。

また別のことですが、山口県では新しい原発建設が計画されています。途中で止まっていますが、脱炭素化社会の動きもあり、電力会社は工事を進める気です。この件では、株主である県知事に工事を許可しないよう何度もお手紙を書きました。瀬戸内海に核物質を持ち込まないでください、と。事故があれば漁業も海運も死にます。自分たちが電力を使って生活し、使用済みの核物質の後始末は子孫にさせるのですか、と。国策であれば、建設は進むかもしれませんが、県知事の良心に訴えることはします。

これらは、JCNA の会長として（団体の代表者として）運動すればもっと有効なのかもしれません。しかし、何につけすぐ詮索し炎上させてしまう揚げ足取りの文化の中です。会員さまの立場を巻き込むことに慎重を要し、私個人の名前で行っています。

戦争、飢餓、難民、略奪、暴力、差別、貧富の差…すべてに具体的に関わることができていません。問題の多さ大きさに比べて、できることはささやかです。でも、主が心に訴えかけてこられるなら一人一人が一步前に。み国が来ますように。

この通信 32 号の編集中にも、元総理の命が奪われる、ベビーサークルに一人置き去りにされた幼児が死亡するなどの事件、熱暑や櫻島火山が噴火するなどの怖い自然現象、サル痘など新たな感染症の蔓延、などなど、次々、命に危険危害を及ぼすことが起こっています。嘆かず、慌てずなにより主に信頼して、静かに、熱心に、命に寄り添いましょう。



## ◆昨年度に引き続いて オンライン早春黙想会 開催

2022年2月11日(金) 10:00~12:00

指導者:広島教区 鳥取教会主任・山口 道晴 神父様

コロナ禍で1年半、鳥取から出られなかった山口神父様がみっちり語られました。

### ★ 鹿児島支部 から感想をいただきました。

※この2年余り、私にとってコロナ禍はどんな時でしたか??

この2年余りたくさんの祈る時間、考える時間をいただくことができました。

私たちが持っている信仰とは何か??

私たちが持っている希望とは何か??

イエス様が下さった愛の行いをどのように生きたか??

(家族とともに、自分の置かれた場で)

山口神父様のご自分の体験を分かち合っ下さった事で、私自身コロナ禍でどのような思いで毎日を生きているか??また生きて行くために聖霊の導きに信頼しながら、過ごしているのかと言うことを考えさせられました。

ZOOM 黙想会後から「ローマ：4章3～6節」この箇所が好きになりました。(パウロの生き方に学びたいと思っています。

創世記：12章参照、

ハランからカナンへ ハイと言う心で、

ハイと言うことばに従ってアブラハムは受け止めて歩んだ。

神とともにあり、謙虚な心をもってアブラハムは従った。

アブラハムの信仰：イサクを捧げる行為：神が望まれているから・神の命令だから

あなたの信仰？ 神に対する人の道→私はこの道を歩んでいるか？（神の御望みだから）

神はいつでもどこでも、私とともに居てくださる

この世の幸せだけでは、信仰は生きられない。

苦しみの意味：神が与えてくださっていることを忘れない（意味がある）

(朝) 今日一日あなたのゆだねます

(夜) 今日一日を反省する 日々の生活で神に呼び掛けることが大切

キリスト者として生きることは、人々に対して謙虚な気持ちでいることが大切である

この箇所から日常の中でどれだけ謙虚な気持ちで、人々と神様に向き合っているのかと考えさせられています。

2022年6月14日 鹿児島支部 Sr.澤 ヤエ子

この黙想会は、ずっと続けましょう。

2023年2月11日に、JCNA 会員のために黙想指導をしてくださる神父様を早めにご紹介ください。

当日はzoomを使ってくださることが必要です。

## ◆リーフレット作成配布事業にうれしい報告がありました！

コロナ禍で各支部が本来の活動をできない状況の中、JCNA の存在を知っていただき、新会員獲得をめざそうと、リーフレットを更新し、カトリック看護大学や看護学校の卒業式や入学式にお花を贈り、合わせてリーフレットをお届けしました。会員のみなさまにも小教区などでの配布を期待しました。

### 横浜支部より！

#### 新規会員募集にリーフレットを役立てています！ 横浜支部浜松グループ 田坂満恵

JCNA 横浜支部の会員数は、今年度、3 名の入会があり 36 名となりました。

入会のきっかけはそれぞれですが、新しく発行されたリーフレットが様々な場面で活躍しています。リーフレット発行に当たっては検討が重ねられ、横浜支部でも全国総会議事録の配信・郵送とともに支部長からデザイン・内容・活用方法等への自由な意見が求められましたので関心は高くなっていました。そして、完成したリーフレットは支部の通信とともに 2 冊ずつ郵送され、会員を通して「働き」始めました。

ある会員は所属教会の広報担当に伝え、教会報（カトリック平塚教会報 123 号参照）で紹介してもらいました。それを聞いた別の会員はネット検索でその記事を読み、刺激を受けて次のように動き始めました。教会内で会員募集を行うことへの伺いを文書とともにリーフレットを添えて教会委員会に諮りました。これは JCNA への理解を更に深めてもらう機会となりました。また、所属教会外の司祭にも数冊渡し医療福祉関係者への呼びかけを依頼しました。様子を聞いた支部長は、必要な会員へ追加を発送しました。

その結果、教会報を読んだ方が 1 名、司祭から手渡しされたリーフレットに目を通した方が 1 名入会されました。後の 1 名の方は職場の会員の紹介で入会し、手続きのためにリーフレットを活用しました。

横浜支部では JCNA を築かれた井深八重さんのお膝元の支部として、託された精神を引き継いでいかれるよう、毎年、機関紙「ともしび」を発行しています。コロナ禍に見舞われてからは近況報告のコナーも設け、直接会うことができない会員の各自の出来事を共有しています。それとともに JCNA の紹介にも活用しています。新しいリーフレットを添えることで入会まで道が通りました。

今後は入会した方が JCNA 会員としての自覚と充実感が得られるよう、互いに協力し合うことが支部の課題と思っています。

そして～新しいお仲間を紹介します。名古屋支部の加藤早苗さんです；

名古屋支部の活動には 3 年程前より参加させて頂いておりましたが、この度洗礼を受け会員としても気持ちを新たに活動に参加したいと考えています。私は老健の介護士として働いていますが、どうしても時間に追われる事が多く、利用者様に対して「これで良かったのかな？」と思うことも日常ではしばしばあります。ですが、定例会に参加し、神父様、シスター、会員の方の意見や話を聞く事で、自分の気持ちを整理し切り替える事が早くなったように思います。また、「ナースの祈り」を仕事前に読むことで、自分の心の準備ができ、「今日はやりきれた」「あの対応で良かった」と肯定で終わる日が増えたように思います。これからも活動を通して様々な事を学び良い会員、介護士になれるよう神父様、シスター、会員の皆様、ご指導のほど宜しくお願い致します。

## 札幌支部からも嬉しい報告が届いています！

天使大学卒業式にお花を贈りました！ 学長様からお礼のメールをいただきました

2022年3月15日、看護学部、栄養学部、大学院(看護・栄養専攻)、大学院助産研究科の計209名の卒業式が行われ、前日には卒業ミサが専攻別に学内チャペルで実施された。

卒業生にJCNAへの認識を促す為アレンジ花を贈呈し、ミサ後にリーフレットの自由持ち帰りを紹介した。残念ながらリーフレットは減少しなかったとのことである。

JCNAからのお花には、大学職員から喜びの声や、大学院に通うJCNA会員は「学内でJCNAのお花があり、とても嬉しかった」と、卒業生ではないが、反響を得ることが出来た。

卒業生と共にお花の前での写真はあるが、JCNA通信掲載について、本人の了承を得ていない為、ケン神父様と会員教員の写真を載せません。

在校生や大学へのアピールのために、現在、宗務コーナーにリーフレットを置いている。顧問司祭のケン神父様が看護系の授業で、リーフレットを使用し、浸透を図って頂けることになっている。今後ポスターを作製・掲示し、さらにPRを図る予定である。小教区へは、札幌・江別・旭川地区計5か所に配置している。さらに、小教区との連携が必要なところである。札幌支部の特徴として、天使病院と天使短大が中心の歴史で、特に、大学移行後は小教区との関連が薄い状況にある。

コロナ禍で大学や教会のバザーが中止となり、JCNAとして出展できず影が薄れてきていたところである。お花の贈呈やリーフレットの活用により、学内外へのアプローチを行っていかねばと考えている。



### ◆総会後のご報告です。

\*予算に組んだ寄付3団体様にすべてお贈りしました。

みなさまにお礼の言葉をいただいています。

\*全国配信支部研修会を計画しているのは、今のところ

広島支部 10月22日土曜日

名古屋支部 11月12日土曜日 です。

\*東京支部顧問バレンタイン神父様、ご病氣快癒とのことでした。

\*森山信三大分司教様に着座のお祝いを述べ、大分支部紹介のお手紙さしあげました。

\*カトリック医師会長が交代されました。 篠崎文彦医師 ⇒ 和田恵美子医師

### 編集後記

JCNA本部にいつも温かなご支援をありがとうございます。

コロナもウクライナもミャンマーもこの先が見えない状況です。

神様はいつでもどこでも私とともにいてくださるということを感じつつ、祈ること、行動することをそれぞれの場所で続けましょう。

2022・7・25 本部書記藤井智恵美

